

緑の風



どんな毎日も“大切なたからもの”
卒業おめでとう！



3月2日(月)、1時間目に全校生が集まり、6年生を送る会が開かれました。6年生に届けよう!と、元気いっぱい、ていねいに、感謝や憧れを歌や演奏で伝える下級生。その姿は、6年生が過ごしてきた時間とも重なり、1年ごとの子どもたちの輝きと、6年分の成長の大きさを感ぜさせてくれました。

思いやりのバトンをつなぐ 6年生を送る会



歌や演奏で
送りましょう

3年生 歌とリコーダー・呼びかけ

「困ったとき、いつも助けてくれて嬉しかったです!」
「♪春だよ 別れと出会い すてきな季節♪」



1年生 合唱 ♪にじ ♪いつまでもともだち

「ソーラン節、かっこよかった!」
「6年生は憧れです。だいすき6年生!」
「♪わすれないで わすれないよ
だってぼくらは いつまでも ともだち♪」



いつまでも ずっと友だち

5年生 合奏 ♪青と夏

「チャレンジした合奏、聞いてください!」
ていねいな演奏が見事でした!



5・6年生 合唱 ♪大切なもの

「大切なものを
みんなに渡します!」



6年生 合唱 ♪旅立ちの日に

「♪いま、別れのとき〜♪」
遠くから見守る担任の先生の背中から
思いが伝わりました。



6年生にしてもらって嬉しかったことが、次の学年への思いやりにつながる。緑小のバトンがしっかり受け継がれた、あたたかな会でした。

まずビデオを見て、
車いすラグビーについて学びます



障がいの重さによって、
車いすの種類がさまざま



興味深々に、話を聞く子どもたち。
×モヤ絵をかく姿も、真剣!



体験してわかる、
聞いて知る、



車いすラグビーチーム「COAST」
あおきそうし やまぐちたかひさ
青木颯志選手 山口貴久選手

4年生 車いすラグビー選手 のお話

1月29日(木)、4年生が総合学習「福祉」の学習の一環として、車いすラグビー選手からお話をうかがいました。

チームの作り方やルールなど車いすラグビーについて学んだ後、競技用車いすに乗り、選手のタックルを受ける子どもたち。車いす同士がぶつかる「パンツ!!」という大きな音に驚きつつ、競技の迫力をカラダいっぱいに感じていました。

質問タイムでは、競技についてや車いすでの生活について、続々と手が。子どもたちの率直な質問の数々は、「知りたい!」という純粋な気持ちであふれていました。

実際に聞いて、触れて、体験して...
教科書にはない、とても貴重な学びをありがとうございました!

「ラグビー中に転んだらどうなるの?」「オリンピックに出たことはある?」「車は運転しますか?」「外で使った車いすでそのまま家に入るの?」「どうやって着替えるの?」「どうお風呂に入るの?」子どもたちの質問の一部です。山口選手と青木選手は、一つひとつていねいに答えてくれました。

タックルの体験



ランチルームに、パンツと大きな音が
鳴り響きます。すごい迫力!!



教えて! 根山先生

Q: 根山先生はどんな所から
授業のインスピレーションを受けますか?

根山先生: DASH村が好きで、いつも見て
刺激を受けます! 常に何か面白い
事はないかと探しています。

1年2組の担任、根山先生が
何やら面白い取り組みをしていると聞き、
授業内容やねらいについてお伺いしました!

1年2組担任
根山達也先生

Q: チャレンジをすることで
どんな気づきがあるのでしょうか?

根山先生: 基本的に子どもたちに
やらせるのではなく「これがある
からじゃあどうする?」と聞きます。
やらされることってみんな好きじゃ
ないので(笑)。やり始めると、
みんなが始めた事だから、自分たちで
最後までやり切ろうって
話ができます。

Q: 染めチャレとは一体なんでしょうか?

根山先生: 授業中に落ちていた樹木につける
木の札を拾ったところからスタートしました。
そこから校内に落ちていた葉っぱや木の実に
染めてみよう!とハンカチを染め、最終的には
大きな布の染めまでチャレンジしてみました。
その他にも給食室にお願いして、玉ねぎの皮
などももらい、1年生全体で色々なものを
自分たちで試行錯誤の上、染めてみました。

Q: そもそもチャレンジはどうやって
始まったんですか?

根山先生: 学年最初に学級目標を立てるので
そこから生まれました。今年は
「みんなでいっしょ レッツチャレンジ」。
それに基づき、何をやるにしても自分たちで
決めた学級目標を「柱」にして行動する、
という流れを作りました。自分たちで決めた事
だからやる!という意識で動きました。
最後は胸上げる(気持ち)勢いですね!

根山先生のお話を聞いて印象的だったのが
「やらされるは退屈だけど進んでやる
ワクワクは続く」という言葉でした。
身近なものを使いながら学ぶという、
先生らしいチャレンジワークを感じられて
聞いているだけで、ワクワクするような
インタビューでした。

染めた布にステンシルでプリント!
これに近隣のお店の名前を入れて
看板としてプレゼントするそうです!

1年生の教室や廊下には
たくさんの方の成果と、
過程のXチャートがぎっしり!

緑が浜小学校P.G.T.がスゴイ！



「できる人が、
できる時に、
できる事を」

行事が円滑に進むこと。
安全が守られていること。
先生方が本来の教育活動に集中できる事。

その裏側には、必ず保護者の支えがあります。
1人ひとりの力は小さくても、
それぞれの強みを持ち寄ることで、
子どもたちの安心や笑顔に繋がる大きな力に
なります。
まるで「スイミー」の物語のように。

短時間だけの協力
得意分野を活かしてサポート
アイデアや提案だけの参加
などなど
全員が同じ動きをすることではありません。
それぞれの立場を尊重しながら成り立っています。

菅野校長先生と藤井教頭先生に 緑が浜小学校P.G.T.について お話を伺いました！！



「他校では役員集めに苦労する中、緑が浜小学校P.G.T.に
毎年多くの保護者が手を挙げてくださることは本当に
素晴らしく、恵まれています。

P.G.T.の存在がありがたく、感謝しかありません。」
と、校長先生。

「できる人が、できる時に、できる事を」スピリット
も緑が浜小学校ならではの特徴かもしれません。
また、スマート化により業務がスムーズになったこと、
学校に集まらなくてもできる事が増えたことも、
今後P.G.T.が続いていくために必要な事だと
お話を伺いました。

学校と保護者が同じ方向を見て、先生は子どものために、
保護者はその思いを理解し、できるかたちで支え合う…
学校と保護者の相互関係が持っていることも
大事な事だと感じました。

パパボラは緑小が誇れる スペシャリスト！



この素晴らしさをもっと多くの方へ

今あるこの素晴らしく温かなP.G.T.は、自然に続くものではありません。
少しの参加、少しの関心、少しの声かけ…
その積み重ねが、今の信頼関係をつくっています。
参加のかたちはひとつではありません。少しでも、
「どんなことをしているんだろう」「自分にもできる事あるかな」
と感じたら、ぜひ一歩踏み出してみてください！！

学校のホームページで『緑の風』
第1号から 見ることができます。
是非ご覧ください！

check!



メンバー
随時募集中！



大島



西谷



初鹿



浦野



高橋



長友



樋口

編集：広報ボランティア 所在地：茅ヶ崎市緑が浜1-1 印刷：仲手川印刷